

「さんべボランティアセミナー」

1 趣 旨

- (1) ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することにより、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする姿勢やボランティア精神を育む。
- (2) 先輩ボランティアやボランティアセミナーに参加した仲間、そして、三瓶青少年交流の家職員とのつながりをつくることにより、今後のボランティア活動への意欲を高める。

2 事業の概要

- (1) 期 間
令和6年5月18日(土)～5月19日(日)
- (2) 会 場
国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象
ボランティア活動に興味のある青年
- (4) 参加者(※募集40人程度)
高校生1人、大学生14人 計15人
- (5) 講 師
くにびき自然学校 代表 佐藤 しのぶ 氏
大田市社会福祉協議会 島田 奨馬 氏、日高 麻里 氏
国立三瓶青少年交流の家 職員
法人ボランティア
- (6) 日程・研修内容
【5/18(土)】
10:10 オープニング(趣旨説明)
10:20 アイスブレイク
11:30 「青少年教育施設の現状と運営(1.0h)」
12:30 昼食
13:30 「ボランティア活動の意義(1.5h)」
15:00 「ボランティア活動の技術(4.0h)」
(夕食時間を含む)
19:30 「青少年教育施設におけるボランティア活動①(1.0h)」
20:30 入浴
22:30 就寝
【5/19(日)】
9:00 「安全管理(救命救急)(3.0h)」
12:00 昼食
13:00 「青少年教育(1.5h)」
15:00 「青少年教育施設におけるボランティア活動②(1.0h)」
16:00 クロージング(振り返り)
16:30 終了

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア 本事業は、「国立三瓶青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」における「育成の入口」に当たる。今後、参加者が当所の法人ボランティアとなり、継続して参加しやすい環境を作るため、ボランティア養成共通カリキュラムを実施する上で、「参加者同士だけでなく、先輩ボランティアとのつながりも深めること。」「三瓶青少年交流の家でのボランティア活動を理解してもらうこと。」を大切にしている。そのことをねらいとし、昨年度に続き、「アイスブレイク」や「野外炊飯活動」を設定した。アイスブレイクは、昨年度より時間を拡大し、初めて顔を合わす参加者同士の関係性づくりがより円滑になるようにした。

イ 参加者と三瓶で活動経験のある先輩ボランティア（さんボラ）とのつながりを深めるため、先輩ボランティアには、「運営のサポート」及び「自身のボランティア活動についての発表」を行う場を設けた。

ウ 大田市社会福祉協議会の方を講師に招き、「ボランティア活動の意義」について、より専門性の高い知見から講義いただいた。

エ 救急救命法の講義・演習では、くにびき自然学校佐藤しのぶ氏を講師に招いた。今年度の7月末に開催する当所の主催事業「SEA TO SUMMIT For Children in 三瓶」にボランティアとして参加する参加者も多くいたことから、当事業で取り組む活動を実施する際に考えておくべきリスクマネジメントと関連した内容で講義いただいた。

(2) 運営のポイント

ア 参加者同士や先輩ボランティアとの交流を深めるため、先輩ボランティアが運営補助主体ではなく、参加者と共に講義・演習に参加することで話しやすい環境を作った。

イ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、先輩ボランティアから当所の事業説明等を行うことに加え、過去の体験から得た学び・気づきを、参加者に直接語ることとした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	93	7	0	0
プログラム	86	14	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- 「初めて会う方々と様々な活動をすることができ、楽しくボランティアについて学べた有意義な2日間となった。」
- 「先輩と仲良くなれて、楽しかった。」
- 「話を聞くだけでなく、実際に体験を通して学べてよかった。」
- 「けがや事故が起きてからのことばかり考えていたが、けがや事故が起きる前のことを考えることが必要であることがよくわかった。」
- 「リスクマネジメントにおいては事前にシミュレーションを行い、けがや事故が起きる要因をしっかりと考えておくことが重要と分かった。」

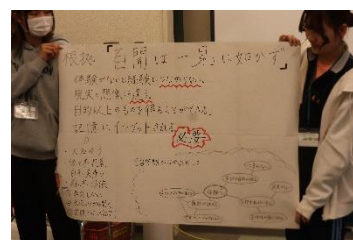
5 成果と課題

《 成 果 》

- 「初めて会う方々と様々な活動をすることができ、楽しくボランティアについて学べた有意義な2日間となった。」「先輩と仲良くなれて楽しかった。」といった肯定的なアンケート記述が多かった。このことから分かるように、本セミナーにおいて多くの人との交流を通して、参加者間の親睦を深めることができた。
- 「話を聞くだけでなく、実際に体験を通して学ぶことができよかった。」というアンケート記述からも分かるように講義だけでなく、野外炊飯や救急救命法など随所に体験する場を設定したことで参加者にとってより実感を伴った理解ができるセミナーとなった。
- くにびき自然学校の佐藤氏の講義・演習では、事前のシミュレーションの重要性やリスクマネジメントを考える際の要因について学ぶことができた。
- 参加者同士だけでなく、先輩ボランティアとのつながりも深めることを大切に企画・運営を行ったことにより、事業終了時には連絡先を交換し合う姿も見ることができた。
- 今年度はコロナ禍の影響も薄れ、各大学で広報活動を行うことができた。その効果もあり、参加者が増加した。

《 課 題 》

- 今回のセミナーでは、計15人の法人ボランティアを養成することができた。今年度はボランティアが参加できる教育事業の数が昨年度より少なくなっている。より多くのボランティアが当所でボランティア活動できるよう活躍の場を創出していきたい。島根県内にある大学の広報活動を引き続き継続するとともに、島根県立大田高等学校、邇摩高等学校、飯南高等学校など当所の近隣高校への広報活動に力を入れ、高校生のボランティア活動を推進する手立てを考える必要がある。



(担当：企画指導専門職付 中谷 康希)